臨床調査個人票

	新規	更新
_		

## 300-2 IgG4 関連疾患

## (自己免疫性膵炎)

1=	r政	計	淮	堋
1	איעו	HI.	JELY.	/17集

受給者番号			判定結果	□ 認定	□ 不認定
■ 基本情報					
姓 (かな)			名 (かな)		
姓 (漢字)			名 (漢字)		
郵便番号					
住所					
生年月日	西暦	年	月		日 *以降、数字は右詰めで記入
性別	□ 1. 男	<u> </u>	女		
出生市区町村					
出生時氏名	姓 (かな)			名 (かな)	
(変更のある場合)	姓 (漢字)			名(漢字)	
	□ 1. あり		2.なし		□ 3. 不明
	発症者続柄				
	□ 1. 父	<u> </u>	母	□ 3.子	□ 4. 同胞(男性)
字指展	□ 5. 同胞	□ 5. 同胞(女性) □ 6. 祖父(父方) □ 7. 祖母(父方)			
家族歴	□ 8. 祖父	□ 8. 祖父(母方) □ 9. 祖母(母方) □ 10. いとこ			
	□ 11. その	□ 11. その他 *11 を選択の場合、以下に記入			
	続柄				
発症年月	西暦	年	Д		

社会保障						
介護認定	□ 1. 要介護	□ 2. 要支	援	3. なし		
要介護度	1	2 3	_ 4	<u> </u>		
生活状況						
移動の程度		のに問題はない	□ 2. いくらか問	題がある		
	3. 寝たきり~	<u> </u>				
身の回りの管理	□ 1. 洗面や着れ □ 3. 自分ででも	替えに問題はない きない	□ 2. いくらか問	題がある		
	□ 1. 問題はない	. \	□ 2. いくらか問	題があろ		
ふだんの活動	3. 行うこと					
痛み/不快感	□ 1.ない	□ 2. 中程	度ある	3. ひどい		
不安/ふさぎ込み	<ul><li>□ 1. 問題はない</li><li>□ 3. ひどく不知</li></ul>	、 安あるいはふさぎ込んで	□ 2. 中程度			
■ 診断基準に関する <sup>3</sup> A. 症状・所見	事項					
		□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
1. 膵腫大		□ a. びまん性腫大 (diffuse)				
		□ b.限局性腫大 (segmental/focal)				
2. 主膵管の不整狭細像	₹:ERP	□ 1. 該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
3. 血清学的所見:高 IgG4 血症 (135mg/dL 以上)		□ 1. 該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
4. 病理組織診断		□ 1. 施行(生検・ヨ	F術) 2. 未施行			
		施行の場合:以下の①~④の病理所見のうち、				
		<ul><li>□ a.3つ以上を認める</li><li>□ b.2つを認める</li></ul>				
		□ ① 高度のリンパ球、形質細胞の浸潤と、線維化				
		□ ② 強拡 1 視野当たり 10 個を超える IgG4 陽性形質細胞浸潤				
		□ ③ 花筵状線維化 (storiform fibrosis)				
		□ ④ 閉塞性静脈炎	(obliterative phle	ebitis)		

		1. あり	□ 2.な	L	□ 3. 不明
5. 膵外病変:硬化性胆管炎、 硬化性涙腺炎・唾液腺炎、 後腹膜線維症		膵外胆管		、硬化性源	見において、 誤験炎・唾液腺炎 泉維症と診断できる
	l l		病変:硬化性胆 維症の特徴的な		性涙腺炎・唾液腺炎、認める
オプション:ステロイド治療	 D効果				
専門施設においては、膵癌 などの悪性疾患を除外後に ステロイドによる治療効果		1.該当	□ 2.非	該当	□ 3. 不明
<診断のカテゴリー>					
□ Definite 1 (びまん型):	AO 1a+ (3, 4)	b、5a、5b 0	のうち1つ以上)	を満たす	もの
☐ Definite 2-1 (限局型1)	: AO1b+2+ (3	8、4b、5a、	5bのうち2つ以 <sub>-</sub>	上)を満た	すもの
☐ Definite 2-2 (限局型2)	: AO1b+2+ (3	8、4b、5a、	5bのうち1つ)・	+オプショ	ンを満たすもの
☐ Definite 3(病理組織学	的確診): Aの4aを	を満たすもの	か		
□ Probable: Possibleの基準+Aのオプションを満たすもの					
Possible:自己免疫性膵炎を示唆する限局性膵腫大を呈する例でERP 像が得られなかった場合、 (EUS-FNAで膵癌を除外) + (Aの3、4b、5a、5bの1つ以上)を満たすもの					
□ いずれにも該当しない					
症状の概要、経過、特記すべき事項など *250 文字以内かつ7行以内					
	,,,,,,,				
■ 臨床症状					
	1. あり		2. なし		3. 不明
悪性腫瘍の合併					
}	<b></b>				
<u> </u>	l .				

自己免疫疾患、	□ 1. あり	□ 2.なし	<u> </u>	不明	
炎症性疾患の合併	疾患名				
	□ 1. あり	□ 2.なし	3.	不明	
アレルギー歴	□ 気管支喘息		□ アレルギー性	鼻炎	
	□ アトピー性皮	膚炎	□ その他		
	□ 1.該当	□ 2. 非該	当 3.	不明	
病変臓器の臓器名と数		□ 腎臓	□ 涙腺	□ 唾液腺	
17.1 X Julyana V Julyana V L	肺	□眼	□ リンパ節	□ 後腹膜	
	□ 血管	□ 下垂体	□ 甲状腺	□ その他	
該当数					
■ 重症度分類に関する事項					
□ ステロイド依存性(十分量のステロイド治療を行い寛解導入したが、ステロイド減量や中止で 臓器障害が再燃し、離脱できない場合)					
□ ステロイド抵抗性(十分量のステロイド治療<初回投与量(0.5~0.6mg/kg)>を6か月間行っても 寛解導入できず、臓器障害が残る場合)					
□ いずれにも該当しない					
臓器障害の程度					
□ 腎臓:CKD 重症度分類ヒートマップが赤の部分の場合					
□ 胆道:閉塞性黄疸が解除できずステント挿入などが必要、または重度の肝硬変 Child Pugh B 以上					
<ul><li>□ 膵臓: 閉塞性黄疸が解除できずステント挿入などが必要、または膵石などを伴う重度の 膵外分泌機能不全</li></ul>					
□ 後腹膜・血管:尿路の閉塞が持続する、血管破裂、あるいはその予防のためのステンティング					
□ 下垂体:ホルモンの	)補償療法が必要				

Child-Pugh 分類 □ ない(1) 脳症 | 軽症(2) □ ときどき昏睡(3) 腹水 □ 少量(2) 中等量(3) □ ない(1) 血清ビリルビン値(mg/dL) 2.0 未満(1)  $2.0\sim3.0(2)$ 3.0 超(3) 血清アルブミン値(g/dL) 3.5超(1)  $2.8\sim3.5(2)$ 2.8 未満(3) プロトロンビン活性値(%) 70超(1)  $10^{-70}(2)$ 40 未満(3) 合計 点 □ B (7 点~9 点) 分類 ■ A (5 点~6 点) □ C(10 点~15 点) CKD 重症度分類ヒートマップ 黄 CKD 重症度分類ヒートマップ □ 緑 □ オレンジ □ 赤 □ G1 (正常または高値: ≥90) G2 (正常または軽度低下:60~89) □ G3a (軽度~中等度低下: 45~59) ①GFR 区分 (mL/分/1.73 m²) □ G3b (中等度~高度低下: 30~44) G4 (高度低下:15~29) ☐ G5 (末期腎不全 (ESKD): <15) □ A1 (正常 0.15 未満) ②蛋白尿区分

☐ A2(軽度蛋白尿 0.15~0.49)

□ A3 (高度蛋白尿 0.50 以上)

尿蛋白定量 (g/日) あるいは

尿蛋白/Cr 比 (g/gCr)

## ■ 人工呼吸器に関する事項(使用者のみ記入)

使用の有無	□ 1. あり				
開始時期	西暦	F 月			
離脱の見込み	□ 1. あり	2. なし			
種類	□ 1. 気管切開孔を介した	人工呼吸器			
刊生大祭	□ 2. 鼻マスク又は顔マス	クを介した人工呼吸	器		
施行状況	□ 1. 間欠的施行	□ 2. 夜間に継続的	に施行		
加到 1 4人亿	□ 3. 一日中施行	□ 4. 現在は未施行	<u>:</u>		
	食事	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助	
	車椅子とベッド間の移動	□ 自立	□ 軽度介助		
		□ 部分介助	□ 全介助		
	整容	□ 自立	□ 部分介助/不可能		
	トイレ動作	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助	
生活状況	入浴	□ 自立	□ 部分介助/不可能	能	
生佔人代	歩行	□ 自立	□ 軽度介助		
	<i>≫</i> 11	□ 部分介助	□ 全介助		
	階段昇降	□ 自立	□ 部分介助	□ 不能	
	着替え	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助	
	排便コントロール	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助	
	排尿コントロール	□ 自立	□ 部分介助	□ 全介助	

医療機関名	
指定医番号	
医療機関所在地	
電話番号	*ハイフンを除き、左詰めで記入
医師の氏名	印 ※自筆または押印のこと
記載年月日	西暦 日 月 日
診断年月日	西曆 日 月 日

- ・病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、診断基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても差し支えありません。(ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限ります。)
- ・治療開始後における重症度分類については、適切な医学的管理の下で治療が行われている状態で、直近 6 か月間で最も悪い状態を記載してください。
- ・診断基準、重症度分類については、 <u>「指定難病に係る診断基準及び重症度分類等について」(平成 26 年 11 月 12日健発 1112 第 1 号健康局長通知)</u>を参照の 上、ご記入ください。
- ・診断年月日欄には、本臨床調査個人票に記載された内容を診断した日を記載してください。
- ・審査のため、検査結果等について別途提出をお願いすることがあります。